

第4章

2012年のベネズエラ大統領選挙および地方選挙：維持されたヘゲモニー

タイス・マインゴン
ベネズエラ中央大学開発研究所 (CENDES-UCV)教授・研究部長
(2013年1月20日)

はじめに

1980年代、ラテンアメリカ・カリブ諸国は同時に2つの大きな変化を経験した。ひとつは史上最悪の経済危機による大多数の国民の生活水準の低下、そしてもうひとつは域内の大半の国が経験した軍事政権からの再民主化である。1980年代以降選挙は、有権者が自分たちの代表を選ぶというだけでなく、それ以上の意味をもつようになった。ラテンアメリカの多くの国において、選挙は国民の政治意思を表明する機会であるにとどまらず、社会が政権に対して評価を下す機会ともなっており、ベネズエラもその例外ではない。選挙のほかにも、市民は抗議集会などさまざまなかたちで政府に対する意思表示をする¹。それらは次第に勢力を増し組織化されつつあるとはいえ、現在のところまだ民主的政治制度に対する参加や評価のメカニズムとして制度化されるにはいたっていない。

選挙の目的は、国民が投票により政治参加し政治家を選出することであり、その結果は政府がさまざまな局面で下す政治決断に対して正統性を付与する。国民は選挙への参加・不参加を自由に決めることができ、また不満を表明するために無言の抗議という意味で棄権するのも自由である。棄権は、民主主義の退化、あるいは政治的秩序と経済社会的秩序の連結がほどけていく過程とみなすこともできる。

本章では、ベネズエラで2012年実施された大統領選挙および地方選挙の結果を分析する。前半では同年10月7日に実施されウーゴ・チャベス (Hugo Chávez Frías) 大統領が4度目の勝利を果たした大統領選挙の結果を分析する。後半では、チャベス派候補が23州のうち20州で当選した12月16日の州知事選挙の結果を分析する。次に選挙および国民投票において各政治勢力の得票がどのように変動しているのかをみていく。結びとして、チャベス大統領が「21世紀の社会主義」あるいは近年「コミュン国家」ビジョンとも

¹たとえば、経済改革に対する不満が大規模な抗議行動に発展した1999年のカラカソ大暴動 (Caracazo) があげられる。それ以降も政府の政策に対する抗議行動が数多く発生している。とくに2002～2003年には、チャベス政権の政治運営に対する多くの国民の不満を結集しようとする動きがあった。

呼ぶようになったヘゲモニー体制を確立するための社会的・政治的・経済的変革プロジェクトが今後も推し進められていくであろうとの見通しについて述べる。

I 選挙を通じたチャベスの台頭

1. 2012年以前の大統領選の結果

チャベスが初めて大統領選に勝利して政権の座についたのは1998年の選挙で、約56%の票を獲得してのことだった（表1、「第五次共和国運動党（MVR）とその同盟」がチャベス陣営）。その1年半後の2000年7月には、チャベスにとって2度目の大統領選挙が行われた。それは、新憲法が1999年末に国民投票で承認されたのを受け、新憲法下で国家権力にあらためて正統性を付与するために実施されたもので、チャベスは約60%の得票率で再選された。

3度目となる2006年12月の大統領選挙でチャベスは、24の政党・政治グループの支持を得て約63%の得票率で勝利した。うち与党第五次共和国運動党（Movimiento V [Quinta] República: MVR）が42%、連立を組む3つのチャベス派政党が15%（社会民主党[Para la Democracia Social: PODEMOS]が6.5%、皆の祖国党[Patria Para Todos: PPT]が5.1%、ベネズエラ共産党[Partido Comunista de Venezuela: PCV、以下「共産党」]が2.9%）、そしてその他20の政治団体が7%を獲得している。一方、2006年選挙では反チャベス派の統一候補ロサレス（Manuel Rosales）の得票率は約37%であった。これは2004年の大統領府不信任投票で反チャベス派が得た不信任率を3%ポイント下回っていた。反チャベス派同盟は43の政党および3つの政治団体に構成されていたが、3つの政党あわせた得票率は26.8%（新しい時代党[Un Nuevo Tiempo: UNT]が13.4%、第一正義党[Primero Justicia: PJ]が11.2%、キリスト教社会党[Comité de Organización Política Electoral Independiente: COPEI]が2.2%）、残りの40政党の合計得票率が10%であった。なお同選挙に出馬した候補者は12人（うち女性は4人）であった。

表1 1993～2012年大統領選挙の政党別得票率

年	民主行動党 (AD)・キリスト教 社会党 (COPEI)の 合計	その他	変革 (Convergencia)	急進正義党 (LCR)	第五次共和国運動党 (MVR)とその同盟
1973-1988年平均	90.0				
1993	46.4	1.2	30.5	22.0	-
1998(*)	11.2	32.6			56.2
2000(**)	-	40.2	-		59.8
2006(**)	-	36.9			62.8
	民主党統一会議 (MUD)とその同盟	その他			ベネズエラ統合社会主 義党 (PSUV)とその同盟
2012(***)	44.3	0.6			55.1

(出所) 国家選挙管理委員会ウェブページ(www.cne.gov.ve) 2012年10月25日現在の集計。2012年11月9日アクセス。

(注)

(*) 1998年よりADおよびCOPEIは自前の候補者を出していない。

(**) AD、COPEI、変革党 (Convergencia) および急進正義党 (LCR) 等の政党は「その他」に含まれる。

(***) ベネズエラ統合社会主義党 (PSUV) および11の政治団体はいわゆるコマンド・カラボガ (Comando Carabobo) を結成してウーゴ・チャベスを候補者に擁立した。民主党統一会議 (La Mesa de la Unidad, MUD) および17の政治団体はいわゆるコマンド・ベネズエラ (Comando Venezuela) を結成してエンリケ・カプリレスを候補者に擁立した。

2. チャベス政権の誕生と2大政党制の崩壊

ベネズエラでは1990年代初めまでは長期にわたって民主行動党 (Acción Democrática: AD) とCOPEIによる2大政党による政治支配が続いた。とくに1973～1988年の4回の大統領選挙ではこの2つの政党の合計得票率はいずれも8割を超えており、30年にわたって2政党間で政権交替を繰り返してきた。しかし、その状況は1990年代にくずれ始め、チャベスが初当選した1998年以降の一連の選挙²で2大政党支配は完全に崩壊した。伝統的2大政党のいずれかに投票してきたベネズエラ有権者の投票行動は大きく変化した。2大政党の弱体化が初めて顕著になったのは1993年の大統領選である。同選挙で伝統的2大政党をあわせて46%の票を得たものの、2大政党以外の諸政党が選挙同盟を組んで擁立した候補者が初めて勝利して

² 1998年から2012年までベネズエラでは、大統領選挙が4回、地方選挙が5回、国民投票が5回、国会議員選挙が4回、制憲議会選挙が1回行われた。

大統領となったのである³。2大政党への支持縮小傾向はさらに続き、1998年には両党あわせて得票率は11.2%にまで下がった。一方、それ以外の政党の得票率はあわせて89%に達し、なかでもチャベスを擁立するMVRとその選挙同盟は56.2%を獲得している。長らくベネズエラ社会に深い根をはって来た伝統的2大政党は、チャベス政権誕生以降消滅の危機に直面している。

伝統的2大政党の弱体化とそれ以外の政党の勢力拡大は、地方レベルにおいても確認できる。1989年の地方選挙では伝統的2大政党以外の政党が州知事、市長ポストに占める割合は27%にすぎなかったが、1998年には58%にまで拡大している。

20世紀最後の2つの大統領選挙（1993年、1998年）の結果は、それ以前から進行していた社会政治的变化を背景に、従来とは異なる新しい政治が伝統的政治と混在する状況を示すものであった。またこれらは、選挙で選ばれた政治家たちがもはや有権者の利益を代表しなくなったということを明確に示していた。政党は自らの支持基盤から孤立し、その結果党員を失っていった。政党としてのアイデンティティも弱まり、支持者はそれらの政党に投票するのをやめ、新しく台頭してきた政治アクターや政治運動を支持するようになった。チャベスの大統領選での勝利のうち初めのいくつかは、このように、1980年代末から始まり、1993年大統領選挙での2大政党以外の候補者の勝利で確かなものとなった、変革を求める国民の期待の産物であったと言える。

政党政治が揺らぎ、その正統性が薄れるなかで、特定の政治家による個人政党化と、政党の弱体化が同時に進んだ。その傾向は、政治家が政党のイデオロギーよりも政権掌握を重視する、あるいは法律ぎりぎりの非合法に近い行為が積み重なるなかで、ますます深まっていった。このように、政治家による政党の私物化と国民の間に広がるアンチ政党主義が同時に起こるという危険な状況になると、結果として国民にとって政治的な選択肢が消滅してしまう。特定の政党を支持する固定支持層にかわり選挙ごとに異なる政党に投票する浮動票が拡大したことも相まって、「アウトサイダー」（伝統的政党以外から台頭した新しい政治リーダーおよび彼らを作る個人政党）が登場しやすい状況になる。あるいは棄権する有権者も増える。これらの結果、国民は伝統的政党を自らの代表とみなさないよ

³ 自らの個人政党である変革党（Convergencia）と社会主義運動党（Movimiento al Socialismo: MAS）やベネズエラ共産党（Partido Comunista de Venezuela: PCV）など左派政党の支援を受けたカルデラ（Rafael Caldera）が勝利した。カルデラはキリスト教社会党（COPEI）の創設者であるが、1993年同党が大統領候補擁立のために実施を決定していた予備選挙への参加を嫌い、離党して個人政党から立候補した。

うになり、また政党に共感しなくなるという典型的な危機的状況が生じた。加えて、政党が党員を動員できるような斬新な理念をもたなかったため、危機はますます深まっていった。このような変化は、時間の経過とともに、政党組織のあり方、選挙動向、そして政治手法にも変化をもたらした。

1998年の大統領選でチャベス政権が誕生して以降の政治変革は、単に選挙で勝利することをめざすにとどまらず、新しい政治モデルの構築に向けての動きであり、現在も進行中である。チャベス政権の14年間を通して、彼が「21世紀の社会主義」または「コミュニケーション国家」と呼ぶ新たなヘゲモニー・モデルが形成されてきたのである。

II 2012年10月7日大統領選挙の結果分析

1. 集計結果

チャベスは、ベネズエラ統合社会主義党（Partido Socialista Unido de Venezuela: PSUV、以前のMVRから改編）の他に11の政治団体の支持を獲得し、55.1%（819万1132票）を得て当選した（表2）。

表2 2012年大統領選挙の結果

	得票数	(%)
ウーゴ・チャベス	8,191,132	55.07
エンリケ・カプリレス	6,591,304	44.31
有効投票数	14,879,739	
棄権率		19.5

（出所）表1に同じ。

一方、反チャベス派連合は民主統一会議（La Mesa de la Unidad Democrática: MUD）を結成し、大統領選に先立つ2012年2月に統一候補選出のための予備選挙を実施している。予備選挙には選挙登録されている有権者の17%にあたる304万449人が投票し、64%を獲得したカプリレス（Henrique Capriles Radonski）が反チャベス派の統一候補に決定した⁴。

⁴ MUDが2012年2月に実施した予備選挙では、大統領候補のほかに全国の州知事選、市長選の反チャベス派統一候補の多くも選出された。州知事候補を予備選挙で選出しなかった8州の州知事候補は、MUDを形成す

カプリレスは大統領選では18の政治団体の支持を得て44.3%（659万1304票）を得票したものの、約160万票（約10%）の差で敗北を喫した。この結果チャベス大統領は4選を果たし、新任期を全うすれば⁵、連続20年間政権の座につくことになる。なお今回の選挙には最終的に男性4人、女性2人の計6人が立候補したが、当選の見込みがあったのはチャベス大統領と反チャベス派の統一候補カプリレスの2人のみであった。

チャベスは、与党PSUVに加え、合計12の政党や政治組織の選挙同盟の支持を受けていた。反チャベス派候補カプリレスは自らの政党PJを含む18の政党や政治組織が形成する反チャベス派同盟MUDの支持を受けていた。両候補者がそれぞれの政党の支持で獲得した票数は表3、表4のとおりである。

表3 2012年大統領選挙：ウーゴ・チャベス候補の政党別得票

政 党	得票数	(%)
ベネズエラ統合社会主義党(PSUV)	6,386,699	42.94
ベネズエラ共産党(PCV)	489,941	3.29
皆の祖国党(Patria Para Todos、PPT)	220,003	1.47
共同体変革党(REDES)	198,118	1.33
人民選挙運動(MEP)	185,815	1.24
革命的行動運動実現統一動向(Tupamaro)	170,450	1.14
社会民主党(PODEMOS)	156,158	1.04
革命への新たな道(NCR)	121,735	0.81
ベネズエラ人民団結党(Unidad Popular Venezolana)	89,622	0.6
全国共同体独立派(IPC)	69,988	0.47
労働革命党(PRT)	58,509	0.39
急進主義党(CR)	43,627	0.29
その他有効票	467	0
合計	8,191,132	55.07

(出所) 表1に同じ。

(注) 2012年11月9日現在の集計結果。

る政党間のコンセンサスで決定された（アマソナス、カラボボ、首都区、ララ、ミランダ、ヌエバ・エスパルタ、タチラ、スリア）。なお予備選挙の結果については、第3章の表1を参照のこと

⁵ チャベス大統領は1年半前に癌を発症し、過去2年間で4回目となる手術を2012年12月11日にキューバのハバナで受けた。術後に合併症を患っていることから、新任期を全うすることができるかどうか懸念されている。

表4 2012年大統領選挙：エンリケ・カプリレスの政党別得票率

政 党	得票数	(%)
民主党統一会議(MUD)	2,204,962	14.82
第一義正義党(PJ)	1,839,573	12.36
新しい時代党(UNT)	1,202,745	8.08
人民の意思党(Voluntad Popular)	471,677	3.17
進歩前進党(Avanzada Progresista)	256,022	1.72
ベネズエラ統一党(Unidad por Venezuela)	131,619	0.88
全国統合運動(MN Unidad)	110,839	0.74
ベネズエラ団結党(Unidos para Venezuela)	64,380	0.43
ベネズエラ進歩運動(MPV Progresista)	51,976	0.34
エコ運動(Movimiento Ecológico)	40,523	0.27
刷新民主主義統一党(Unidad DR)	36,126	0.24
前進党(Va Pa lante)	34,938	0.23
変革の勢力党(La Fuerza del Cambio)	33,374	0.22
人民的前衛党(Vanguardia Popular)	31,279	0.21
自由勢力党(Fuerza Liberal)	22,965	0.15
組織された選挙統一党(Unidad NOE)	20,444	0.13
生産性党(Productividad)	18,748	0.12
ベネズエラ責任持続進取運動(Moverse)	18,644	0.12
その他の有効票	470	0.00
合計	6,591,304	44.31

(出所) 表1に同じ。

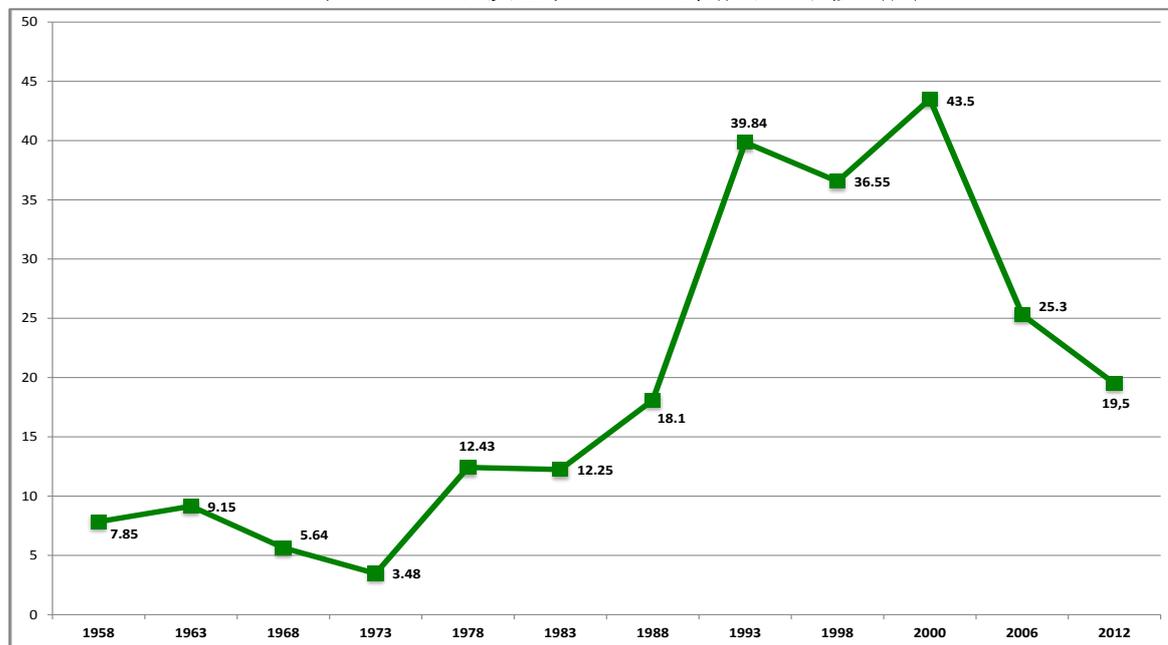
(注) 2012年11月9日現在の集計結果。

また今回の選挙では、有権者の投票参加率の高さが注目された。今般の選挙では、選挙登録されている1885万4935人の有権者のうち実際に投票したのは1517万6253人で、棄権率は19.5%と前回(2006年)に比べて6ポイント低下した。

これをベネズエラの大統領選挙における棄権率の歴史的推移のなかでみてみよう(図1)。ベネズエラでは1958年の民政移管以降1973年まで棄権率は一桁の低さであったが1978年に上昇し始め、1993年には40%近くに達した。チャベス大統領が初勝利を収めた1998年の大統領選挙で棄権率は36.6%に若干低下したものの、2000年には再び43.5%にまで上昇した。それ以降の選挙では棄権率は低下傾向を示しており、今回の2012年大統領選挙ではついに20%を切った。1980年代以前に棄権率が低かったのは、当時は投票が義務化されており、罰則規定も設けられていたためである。その罰則規定が廃止され、1980~1990年代にAD-COPEIの2大政党制に対する国民の不満が高まるとともに棄権率は急上昇した。それが再びチャベス政権下で低下傾向にあるのは、厳しい二極対立が続いていること、チャベス派と反チャベス派の政治ビジョンが対照的で、どちらが勝

利するかが国民生活に大きな影響を与えること、そして両陣営による動員努力などが影響しているのであろうと考えられる（動員については後述する）。

図1 1958～2012年までの大統領選挙における棄権率の推移（％）



(出所) 表1に同じ。

2. 結果分析

チャベス大統領は今般の選挙で 10.7%ポイント差で当選し、「余裕の勝利」であったといえるであろう。しかし、選挙結果データを、前回 2006 年の結果データと比較すると（表5）、以下のような興味深い点が浮き上がってくる。

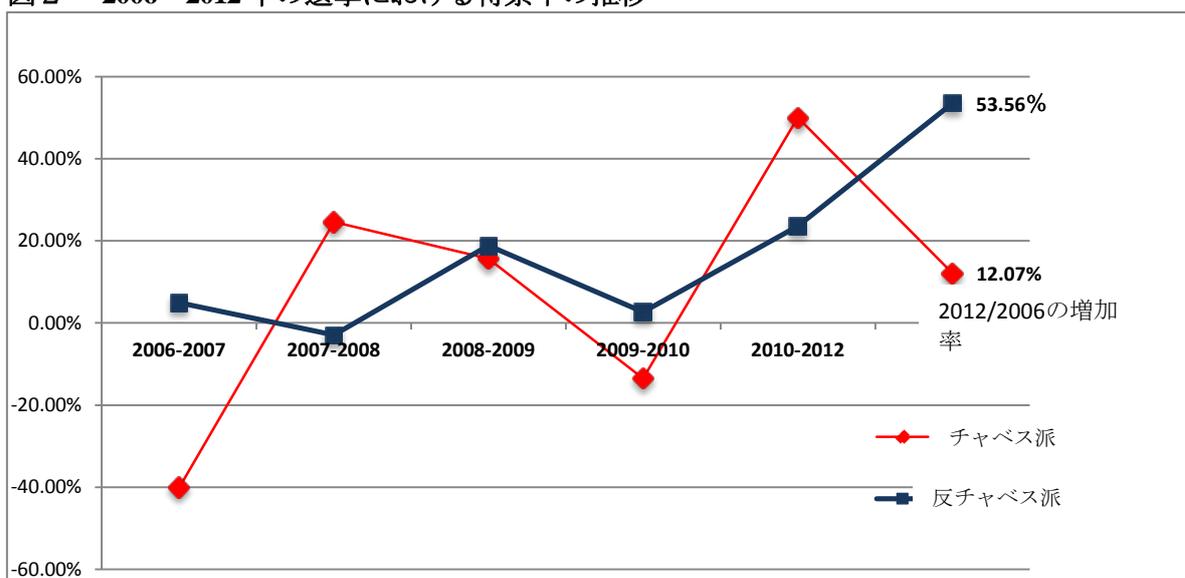
表5 2006年、2012年の大統領選挙の結果

	2006		2012		2012-2006 増減	
	得票数	得票率	得票数	得票率	得票数	率(ポイント)
ウーゴ・チャベス	7,309,080	62.84%	8,191,132	55.07%	882,052	-7.77%
反チャベス派						
マヌエル・ロサレス	4,292,466	36.90%				
エンリケ・カプリレス			6,591,304	44.31%	2,298,838	7.41%
有効投票数	11,630,152		14,872,739			
投票率		74.69%		80.48%		5.79%

(出所) 表1に同じ。

- (1) チャベス大統領への支持は縮小している。2006年の選挙ではチャベス大統領の得票は約731万票（62.8%）、2012年の選挙では約819万票（55.1%）となっており、得票数では約88万票増加したものの、その増加分の大半は、6年間の人口増によって有権者数が300万人以上拡大していることと今回の投票率の高さによるもので、全投票数に占めるチャベス大統領の得票の割合は7.8%ポイント減少しており、チャベス大統領への支持は縮小しているといえる。
- (2) 一方で反チャベス派は、2006年の選挙でロサレス候補者が獲得した約429万票（36.9%）から2012年にはカプリレスが約659万票（44.3%）へと、票数では約230万票増加し、得票率では7.4%ポイント増加した。
- (3) 2012年の選挙では、チャベスとカプリレスの得票率の差は10.8%ポイントであった。2006年選挙のチャベスと反チャベス派候補ロサレスの得票率差は26%ポイントであったことを考えると、反チャベス派は差を半分に縮めたといえる。図2は2006年から2012年までの選挙におけるチャベス派と反チャベス派の得票率が、ひとつ前の選挙と比較してどれほど増減したかを示したものである。図には大統領選挙のほか、2007年および2009年の国民投票、2008年の地方選挙、2010年の国会議員選挙も含まれる。また、2006年と2012年を比較すると、チャベス派は12.07%、反チャベス派は53.56%増加している。

図2 2006～2012年の選挙における得票率の推移



(出所) 表1に同じ。

- (4) チャベスの得票を与党 PSUV と選挙同盟に分けてみると(表6)、PSUV は全有効投票数の43%、それと選挙同盟を組むチャベス派諸政党は同12%の票を獲得した。MVR (のちに PSUV に改編) とその選挙同盟は2000年の選挙で過去最高の得票率(48.11%)を獲得したが、2006年の選挙では最低の得票率(41.66%)となった。これは、与党が単独で大統領選挙で勝利するのは容易ではないことを示している。今回の選挙でも、PSUV の得票率は42.94%であり、それはカプリレスの総得票率44.31%を1.37%ポイント下回っている。これは、与党 PSUV が大統領選で勝利するためには、チャベス派の他政党との選挙同盟が不可欠であることを示している。

表6 1998～2012年の大統領選挙におけるMVR (PSUV) 選挙同盟を組む政党の得票内訳

年	MVR・PSUV		選挙同盟を組む勢力		合計	(%)
	得票数	(%)	得票数	(%)		
1998	2,625,839	45.00	1,047,846	11.23	3,673,685	56.23
2000	3,025,224	48.11	732,549	11.64	3,757,773	59.75
2006	4,845,480	41.66	2,463,600	21.18	7,309,080	62.84
2012	6,386,699	42.94	1,805,000	12.13	8,191,699	55.07

(出所) 表1に同じ。

(注) PSUVとして戦ったのは2012年のみ。それ以前は第五次共和国運動党(MVR)。

- (5) 州別に結果をみると、チャベス大統領への支持は、24州のうち23州で低下した。チャベス大統領の得票率が増えたのは、2006年の51.38%から今回53.34%に微増したスリア州だけであった。7つの州(アマソナス、ボリバル、デルタ・アマクロ、ララ、アラグア、モナガス、スクレ)ではチャベスの得票率は前回比で10%ポイント低下した。
- (6) 2006年の大統領選挙では反チャベス派候補ロサレスの得票は24州においてチャベスを下回っていた。2012年の大統領選挙では、反チャベス派候補カプリレスの得票は2州(メリダおよびタチラ)でチャベスを上回り、ミランダ州では互角であった(表7)⁶。しかしながら、前回選挙と比較すれば、反チャベス派の得票率は2006年

⁶ 今回の選挙では、カプリレスを支持していた政党が直前になってカプリレス支持を撤回したり、別の候補者に鞍替えするケースがいくつかあった。ベネズエラでは、政党名と候補者名のセットで投票する。そのため、投票機で投票操作をする際に、カプリレスに投票するつもりで、それら直前にカプリレスから乗りかえた政党のボタンからあやまって投票してしまうケースが続出した。それが原因でミランダ州ではカプリレスへの投票の一部が失われた。

選挙に比べて22州で拡大し、7州（アマソナス、ララ、ボリバル、アラグア、デルタ・アマクロ、スクレ、モナガス）では際立って伸びた。反チャベス派は過去2回の選挙で敗北を喫したものの、有権者の支持を拡大する力があることを示した。

表7 2012年大統領選挙の州別の得票結果

州	有効投票数	投票率	チャベス		カプリレス	
		%	票数	%	票数	%
首都区	1,267,287	80.33	695,162	54.85	564,312	44.52
アマソナス	72,840	78.73	39,056	53.61	33,107	45.45
アンソアテギ	793,894	81.13	409,499	51.58	378,345	47.65
アプレ	235,998	78.38	155,988	66.09	78,358	33.2
アラグア	943,178	82.60	552,878	58.61	384,592	40.77
バリナス	411,279	80.70	243,618	59.23	165,135	40.15
ボリバル	721,004	78.76	387,462	53.73	327,776	45.46
カラボボ	1,196,518	80.44	652,022	54.49	537,077	44.88
コヘデス	178,485	82.48	116,578	65.31	60,584	33.94
デルタ・アマクロ	82,227	74.70	54,963	66.84	26,506	32.23
ファルコン	495,858	80.17	296,902	59.87	195,619	39.45
グアリコ	387,229	80.11	249,038	64.31	135,451	34.97
ララ	970,777	82.65	499,525	51.45	463,615	47.75
メリダ	469,055	83.01	227,276	48.45	239,653	51.09
ミランダ	1,543,145	80.79	771,053	49.96	764,180	49.52
ヌエバ・エスパルタ	259,593	80.87	132,452	51.02	125,792	48.45
モナガス	466,896	80.50	272,480	58.35	191,178	40.94
ポルトウゲサ	462,599	82.14	327,960	70.89	131,100	28.33
スクレ	466,396	76.01	280,933	60.23	182,898	39.21
タチラ	634,243	81.22	274,573	43.29	356,713	56.24
トゥルヒージョ	393,186	80.03	252,051	64.10	139,195	35.40
バルガス	207,002	79.57	127,246	61.47	78,382	37.86
ヤラクイ	324,033	82.11	194,412	59.99	127,442	39.32
スリア	1,821,959	79.38	971,889	53.34	843,032	46.27
在外投票	67,624	70.73	5,716	8.45	61,229	90.54
遠隔地	434	56.96	400	92.16	33	7.60
合計	14,872,739	80.48	8,191,132	55.07	6,591,304	44.32

(出所) 表1に同じ。

3. チャベス勝利の背景要因

チャベス大統領の再選は、さまざまな要因から説明できるであろう。第一に、チャベス大統領が社会開発部門で達成してきた成果を評価し、支持する人々が、とくに大衆層に多くいることである。チャベス大統領は「ミシオン」(misión)と呼ばれるさまざまな社会開発プロジェクトを実施し、低所得者層に石油収入をさまざまな方法で還元することで、所得格差や貧困を縮小させてきた。チャベス政権下では所得格差を示すジニ係数や貧困線以下の生活を送る人々の割合が明らかに低下している(第1章を参照)。それら社会開発プロジェクト「ミシオン」によって、家を獲得した人々、水道がひけた人、無料医療センターに病気の子どもを連れていけた人など、恩恵を受けた貧困層の人々が多い。また公的部門の拡大で、公務員としての働き口をみつけた人々もいる。

チャベス勝利の背景として、このようなチャベス政権の成果に対する肯定的評価があるだろう。それに加えて、さまざまな要因も指摘されている。たとえば、チャベス大統領自身のカリスマ性、チャベス派組織の強力な動員力(とくに選挙当日)、チャベス派が選挙運動に公的資金や資源をあからさまに使用し、有権者の票獲得のための金銭的工作まで行っていたこと、選管が明らかにチャベス派寄りであること、などである。以下説明している。

候補者であるチャベス大統領は、自身の選挙運動に公的資源を使用し、大統領であるという立場を利用してメディアを最大限活用したことは、注目に値する。チャベス大統領は反チャベス派民放テレビ・ラジオ局を30以上閉鎖する一方、国営放送を増設しており、国営放送を自らの選挙運動に利用してきた。チャベス大統領は国営テレビ・ラジオ局で毎週日曜日に「ハロー、大統領」(Aló, Presidente)という番組をもっており、そこで数時間にわたり話し続ける。また、チャベス大統領は、民放局に対しても大統領メッセージの放送を義務付ける。ベネズエラでは現在「カデナ(cadena、鎖という意味だが、テレビやラジオのチャンネルもさす)」という言葉が、大統領メッセージの放送を国内テレビ・ラジオ局に義務付けるメカニズムとして使われている。カデナは、ニュース、映画、スポーツなど、どのような番組を放送中であろうとも、すべての局はすぐにそれを中断して国営放送(Venezolana de Televisión)が流す番組に切り替えなければならない。カデナの内容やタイミング、長さは大統領が決定する。すなわちカデナは、大統領のメッセージを国内のすべてのテレビ・ラジオ放送を通じて同時に流す「チェーン」として機能する。このよ

うに大統領はメディアを最大限利用する一方、チャベス以外の大統領候補に関しては、選挙法によってテレビ出演は1日3分間に制限されている。

選管が中立的でないことは、反チャベス派および海外からも批判されている。憲法第296条は明確に「国家選挙管理委員会は政治的団体と関係のない5人の委員から構成される」と規定しているが、現選管委員の5人のうち4人がチャベス派、1人が反チャベス派であるといわれている。チャベス派の4人のうちダメリオ（Tania D'Amelio Cardiet）は選管委員になる前は与党 PSUV の国会議員であったし、もうひとりのエルナンデス（Socorro Elizabeth Hernández）は国営電話会社 CANTV の社長であった（国営企業経営者はチャベス大統領に任命される）。前の選管委員長ロドリゲス（Jorge Rodríguez）は、選管委員長辞任後にチャベスによって副大統領に任命され、与党 PSUV 執行部メンバーでもある。このように選管が中立的でないため、上述したように選挙運動と選挙監視の公平性に影を落とし、ひいては、選挙結果に対する疑念も生んでいる。

また、政府は票獲得のために、非合法的ともいえる仕組みを作り上げた。たとえば国民身分証明制度を利用して、公務員や、チャベス大統領が大規模に実施する教育や医療、低所得者向け住宅の無料供与など、各種社会開発プロジェクト「ミッション」の恩恵を受けた人々に働きかけ、チャベスに投票しないと公務員雇用を失う、あるいは無料住宅などの社会開発プロジェクトの恩恵を失うことになる脅し⁷。さらに公務員に対しては、チャベス派が実施する政治集会などに参加してチャベス支援を強要するなど、圧力をかけ、チャベスへの投票を組織的に強要した。公務員がチャベス以外の候補者に投票することはリスクをとめない、勇気のいる行動ということになる。そしてチャベス政権は10年余の間に公務員数を倍増させており、2012年には約250万人にのぼっている（*El Universal*, 9 de enero de 2012）。また選挙当日には、軍、ボリバル義勇軍、治安部隊を使って、チャベスに投票するとみられる有権者が確実に投票会場に足を運ぶよう、彼らを輸送した（*El Universal*, 14 de octubre de 2012）。

今回の大統領選挙のチャベス勝利の背景には、過去14年間チャベス大統領が支持層との間に構築してきた非常に強固で感情的な結びつきも指摘できる。これは、チャベス大統領が財政収入を分配することで構築されてきた。とくに数年前から展開されてきた社会開

⁷たとえば、エネルギー石油大臣兼国営石油会社 PDVSA 社長のラミレス（Rafael Ramírez）は、2006年12月の大統領選挙直前に「PDVSA はボリバル革命で真っ赤だ」と発言し、役職員がチャベスに投票するよう強く求めた。反チャベス派は、これは脅しであり自由投票を阻害するものだと反発したが、チャベスは「ノーベル賞並みの表現である」としてラミレスを賞賛した（*El Universal*, 8 de noviembre de 2006）。

発プロジェクト「ミシオン」、なかでも選挙1年前の2011年に創設されたいくつかの大規模な社会開発プロジェクトを通して、巨額の資金を支出し、その多くを貧困層や危険な状態におかれている人々への支援にあてた。たとえば、避難生活を続ける豪雨被災者へ住宅を供与する「住宅供与メガプロジェクト（Gran Misión Vivienda）」、年金受給者を大幅に拡大する「敬老メガプロジェクト（Gran Misión en Amor Mayor）」、若い母親への資金援助「ベネズエラの息子達プロジェクト（Misión Hijos de Venezuela）」などである⁸。これらの社会開発プロジェクト「ミシオン」は、石油輸出によってもたらされる収入の分配チャンネルとなるとともに、公平な選挙を阻害する効果的な道具ともなった⁹。なかでも住宅メガプロジェクトは政府にとって最高の選挙宣伝材料となった。このような社会開発プロジェクトを宣伝することで、チャベスへの期待が膨らみ、票獲得へと結びついたと考えられる。

選管は2011年より、投票テーブル（投票機械）がひとつか2つだけの小規模な投票会場を全国に新設した¹⁰。以下に述べるように、自由で公正な選挙の実施を阻むような行為は、通常の投票会場よりもこのような新設された小規模な投票会場で行われることが多かった。ベネズエラでは法律により、投票会場は学校施設を利用することが定められている。今般の選挙においては、首都カラカスに新設された投票会場の大半（73%）が、投票テーブルが1つしかない小規模会場だった。またカラカスの新設投票会場の32%は学校に設置されたが、16%はチャベス派住民が運営する地域住民委員会¹¹の事務所に設置

⁸ 政府機関を通して住宅メガプロジェクトに登録していた避難生活を送る被災者には、投票日の2日前の10月5日に政府が「選挙ボーナス」として1世帯につき4800ボリバル（1116ドル）を供与した。また、これら被災者の投票会場が変更され、新しい投票会場まで送迎するバスが手配された（*Ultimas Noticias*, 21 de octubre de 2012）。

⁹ 2012年10月7日の大統領選挙に関するカーター・センター選挙調査団の最終報告書には次のような記載がある。「政府支出は2012年に前年比45%増加した。住宅メガプロジェクトは選挙運動中、非常に人気の高いプログラムであった。これは、政府が住宅を建設し貧困層に無償で引き渡すものである。複数の情報筋によると、同事業は最初の実施年に4万4000軒～26万5000軒の住宅を建設し、さらに将来住宅を無償で取得できる引換え証を100万通発行した。選挙運動期間を通して政府はこのプログラムを宣伝していた」（Centro Carter [2012], *Informe final de la misión de estudio del Centro Carter. Elecciones presidenciales en Venezuela 7 de octubre de 2012*, Atlanta: Centro Carter, p.6.）

¹⁰ 国家選挙管理委員会の事前発表によると、投票会場の数は合計で1万3683となると見込まれ、2010年の議会選挙に比べて1248カ所増加した。また、投票テーブルの数は過去の選挙に比べると2549多い3万9018となる。海外のベネズエラ大使館には304の投票会場が設けられ、海外在住の10万495名の有権者が在外投票することが予定されていた（*El Universal*, 21 de octubre de 2012）。

¹¹ 地域住民委員会はチャベス大統領が設立を呼びかけて各地で設立されたコミュニティ自治組織であり、2006年4月に法律で制度化された。そのほとんどが貧困層居住地域にある。中央政府への登録が必要で、中央政府から直接資金分配を受ける。一方、同制度がスタートして以降当局側は反チャベス派住民が構成する同委員会をさまざまな理由で登録から排除してきた。そのため、公的に登録されている地域住民委員会は実質上ほぼ100%チャベス派住民によるものであるとともに、それらチャベス派住民がつくる地域住民委員会は、チャベス大統領にとって最大の大量ベースの支持基盤となっている。

された。これらの約半分がチャベス派の施設内に設置されたとの報道もある（*El Nacional*, 19 de agosto de 2012）。このように公然とチャベスを支持する組織の施設が投票会場として使われたこと、またそのような会場の周辺では、反チャベス派の有権者や投票会場管理者、立会人に対してチャベス支持者らによる暴力的な示威行動がみられたことなどから、反チャベス派市民が投票会場に近づくのを困難にした。たとえば、投票日当日は、銃を保持した覆面の「モトリサードス」と呼ばれるバイクの隊列がチャベス支持をアピールしながら行進し、反チャベス派有権者に恐怖心を抱かせるケースもあった。このような行為に対して、選挙管理関係者は見て見ぬふりをしていた。

カラカスでは3万人（有権者の2%）がそれらの新設の投票会場で投票した。このような投票会場は全国に設置されたが、接戦になった場合はこうした投票会場での投票結果が与党の候補者に有利な選挙結果をもたらすことが考えられる。またこれらの新しい投票会場は、今回の大統領選挙に限らず、今後実施されるほかの選挙においても同様の効果をもつと考えられる。反チャベス派の選挙運動本部の情報によると、1300の投票テーブル（その大半が上述のような新設の小規模投票会場）では、反チャベス派の候補者の得票はゼロから最大でもわずか20票であった。なかには外務省内に設けられたものもあり、ここではチャベスは94%の票を獲得している。同様に、チャベス大統領が選挙1年前から大規模に推進した貧困層向け住宅メガプロジェクトの宅地開発地域にも多くの投票会場が新設された。そうしたところではチャベスが95~99%の票を獲得した。チャベスに投票しないと、約束された住宅を引き渡さないと脅す、あるいは有権者に対してチャベスへの投票を強要することがあったのではないかと疑念がもたれている¹²。

¹² 反チャベス派政党 COPEI の幹部メロ（Carlos Melo）は、調査結果を次のように指摘している。「1~3つしか投票テーブルがない2948の小規模投票会場（合計4800の投票テーブル）で105万人の有権者が投票することになった。それらの新しい投票会場は、国家組織の本部や吸収された企業、軍や警察の施設、チャベス大統領の社会開発プロジェクトのひとつである貧困地域の医療プロジェクト「ミシオン・バリオ・アデントロ」の診療所、地域住民委員会の事務所や公民館、避難所、情報センター、チャベス政権の低所得者向け住宅ミッションの宅地開発区や集団開発区などに設置された。そこでは興味深いことが行われていた。反チャベス派の氏名が記載されたマイサンタ・リストと、各種の社会開発プロジェクト「ミシオン」で恩恵を受けた人々の氏名が記載されたリストを比べてみると、チャベス派市民、すなわち地域でマイサンタ・リストにのっていない有権者（イタリック部分は監訳者）はすべてそれらのプロジェクトの受益者であった（*El Universal*, 3 de noviembre de 2012）。

III 2012年12月16日の地方選挙結果

大統領選挙のわずか1カ月半後に実施された今般の地方選挙では、州知事23人のほか、州議会議員229人、先住民代表8人が選出された。州議会議員の候補者は各政党より選出され、先住民代表は先住民居住選挙区でのみ選出された。選挙登録されている有権者は1742万1946人であり、うち18万6369人は10年以上の居住歴をもつ選挙登録済みの外国人であった。地方選挙であるため、海外在住のベネズエラ国民の在外投票は実施されない。国家選挙管理委員会の発表では、8171名が候補者（小選挙区候補者記名選挙で立候補する候補者、比例代表リストで立候補する候補者¹³および先住民候補者）として届け出た。首都区に居住する有権者は、今般の選挙では首都圏知事と首都圏議会議員を選出しないため、投票しなかった。

1. 州知事選挙

全国23州の知事選には、合計122人の候補者が立候補し、うち女性候補者は14%（17人）であった。再選された知事は11人で、初当選したのは12人であった。当選した知事23人のうち12人が軍人であり、うち11人はチャベス派、1人が反チャベス派であった¹⁴。また当選を果たした女性は4人であり、女性知事の数としては史上最多であった。

チャベス派候補が20州で当選し、反チャベス派は3州（アマソナス、ララ、ミランダ）で勝利した。前回（2008年）の選挙ではチャベス派が17州、反チャベス派が5州で知事ポストを獲得していた¹⁵のと比較すると、今回チャベス派は前回反チャベス派が勝利した4つの州（スリア、カラボゴ、タチラ、ヌエバ・エスパルタ）を奪還し、合計では知事ポストを3つ増やした。一方、反チャベス派は前回より2州減らした。

今回の知事選では与党PSUVは全国平均で46.7%の票を獲得し、最多の票を獲得した政党となった。同党と選挙同盟を組む諸政党は合計で全国平均7.7%を獲得した。うち、ベネズエラ共産党はもっともチャベス派寄りの政党であるが、選挙同盟を組む諸政党のなかではもっとも得票率（2.9%）が高かった。反チャベス派MUDを結成する政党のなかでは、

¹³ 国会議員選挙同様、州議会議員選挙においても、小選挙区候補者名記名式と比例代表リスト式の混合方式で議員が選出される。選挙制度の詳細については第2章を参照のこと。

¹⁴ ララ州で再選されたファルコン知事（Henry Falcon）は、前回の知事選ではチャベス派候補として立候補し勝利していたが、その後チャベスから離反した。

¹⁵ 2008年地方選挙では、1つの州で知事選が実施されなかったため、22の州で知事選が行われた。

第一義正義党（PJ）が反チャベス派の第一勢力となり、全体でもPSUVに次いで2番目に多い票（8.5%）を獲得した。同党は、反チャベス派のなかで2008年の地方選挙以来伸長を続ける唯一の政党である。その他の反チャベス派の政党はすべて2010年の国会議員選挙に比較すると票を減らしている。また大半の反チャベス派政党は2008年の地方選挙以降、2010年、2012年と継続的に票を減らしている¹⁶。

また反チャベス派は今回の知事選において、全国の重要都市である10の州都（バリナス、バルキシメト、シウダー・ボリバル、コロ、ラ・アスンシオン、マラカイ、マラカイボ、プエルト・アヤクチョ、サン・クリストバル、メリダ）でチャベス派より多い票を獲得した¹⁷。これは、与党PSUVが全国の主要都市を手中に収めるのが困難であることを示している。

大統領選挙ではチャベス勝利のためにはチャベス派諸政党との選挙同盟が不可欠であったことは先に述べたとおりだが、州知事選挙に関しては、与党PSUVが20州で勝利するために選挙同盟が必ずしも必要だったわけではなかった。PSUVが勝利のために選挙同盟を必要としたのは、2州（ボリバルおよびスリア）のみであった。PSUVの得票率が最低（40%）であった州のひとつがボリバル州であったが、そこではチャベス派で連立を組む勢力のなかでもっとも重要な政党である共産党が、PSUVとは別の候補者を擁立し、有効票の8%がその候補に流れた。その結果、チャベス派候補と次点であった反チャベス派（MUD）の候補者との得票率差はわずか2.76%ポイントとなった¹⁸。

一方、反チャベス派MUDの選挙同盟において注目されたのは、アマソナス州の、グアルージャ（Liborio Guarulla）候補を擁立した地方政党、ベネズエラ進歩運動（Movimiento Progresista de Venezuela）である。同州では反チャベス派が勝利するには選挙同盟が不可欠で、結果としてグアルージャは合計で36%の得票率で再選を果たした。同様に、ララ州では28政党が現知事のファルコン（Henri Falcón）を候補に擁立し、その選挙同盟によってファルコンの勝利がもたらされた。ファルコンの所属政党である進歩

¹⁶ 2008年以降継続的に得票を減らしている典型的な例は、スリア州知事選にパブロ・ベレスを擁立した新時代党（Un Nuevo Tiempo : UNT）であった。

¹⁷ これら10都市は次の州の州都である。バリナス、ララ、ボリバル、ファルコン、ヌエバ・エスパルタ、アラグア、スリア、アマソナス、タチラ、メリダ。カラボボ州の州都であるバレンシアでは、チャベス派候補は49.8%、反チャベス派候補は49.5%を獲得し、事実上の引き分けとなった。

¹⁸ ボリバル州の反チャベス派MUD候補者、ベラスケス（Andrés Velásquez）は、国家選挙管理委員会に選挙結果の不服申し立てを行った。国家選挙管理委員会が選挙結果を発表した時点で、まだ投票会場から同委員会に送信されていない選挙結果の証明書が126通あったためである（*El Universal*, 17 de diciembre de 2012）。

前進党 (Avanzada Progresista) は有効票の 20%を獲得したが、それに選挙同盟を組むその他の 27 政党が獲得した合計 34%が上積みされて、ファルコンの勝利を可能にした。ちなみに、アマソナス州のグアルージャ、ララのファルコンのいずれも以前はチャベス派の地方政治家であったが離反し、反チャベス派に回った経緯がある。

チャベス派候補のボリバル州およびヌエバ・エスパルタ州での当選は、わずか 5%ポイント足らずの差での勝利だった。一方 13 州では、チャベス派は 10~30%ポイント差で、5 州では 40%ポイント以上の大差で当選した。とくにデルタ・アマクロ州およびバルガス州では、与党 PSUV の候補者は反チャベス派に 66%ポイント近くの大差をつけて当選している。

他方、反チャベス派が当選した 3 州では、チャベス派候補との得票差は、アマソナス州で 16%ポイント、ララ州で 8%ポイント、ミランダ州で 4%ポイントであった。ミランダ州では大統領選への立候補のために知事を辞任し、10 月の大統領選で反チャベス派統一候補となったカプリレスが知事選で再選されている。

表8 2012年州知事選挙のチャベス派、反チャベス派（MUD）、その他の州別有効票

州	有効票	投票率 (%)	チャベス派		反チャベス派		その他
			得票数	(%)	得票数	(%)	得票数
アマソナス	64,199	68.00	24,876	38.74	35,328	55.02	3,995
アンソアテギ	518,524	53.16	292,753	56.45	222,280	42.86	3,491
アプレ	148,655	49.25	94,112	63.3	32,991	22.19	21,552
アラグア	614,243	54.71	341,316	55.56	271,367	44.17	1,560
バリナス	247,320	48.34	143,198	57.89	104,046	42.06	76
ボリバル	372,755	41.15	173,536	46.55	163,265	43.79	35,954
カラボボ	732,793	49.32	408,439	55.73	319,619	43.61	4,135
コヘデス	118,841	55.59	75,383	63.43	42,820	36.03	638
デルタ・アマクロ	51,211	46.78	42,037	82.08	8,213	16.03	961
ファルコン	305,566	49.82	157,640	51.58	109,779	35.92	38,147
グアリコ	198,695	41.14	148,445	74.7	50,163	25.24	87
ララ	654,214	56.30	300,074	45.86	352,478	53.87	1,662
メリダ	299,549	53.18	150,493	50.23	116,197	38.79	32,859
ミランダ	1,126,067	58.34	538,549	47.82	583,660	51.83	3,858
モナガス	305,788	52.91	168,532	55.11	136,641	44.00	615
ヌエバ・エスパルタ	205,291	63.31	759,214	54.06	693,225	45.72	1,277
ポルトウゲサ	244,353	43.97	110,982	59.8	93,868	24.88	441
スクレ	263,082	43.56	131,367	53.76	60,809	35.68	52,177
タチラ	460,679	57.57	157,344	54	93,869	45.49	11,869
トゥルヒージョ	222,905	45.29	248,788	82.3	209,568	17.27	2,323
バルガス	105,485	41.55	183,453	82.3	38,511	25.13	941
ヤラクイ	207,112	53.41	77,476	73.44	26,518	37.76	1,491
スリア	1,453,716	62.19	127,333	52.22	78,217	47.68	1,562
合計	8,921,043		4,855,340		3,843,432		221,671

(出所) 表1に同じ。

12月16日の選挙結果からは、各州においては地方分権が十分に根を下ろしておらず、地方政治の主導権を地元がとることの利点が認識されていないことがうかがえる。すなわち、有権者は地方選挙の候補者を地元で選出するのではなく、チャベス大統領が指名した候補者を、その多くが当該州での政治経験がないにもかかわらず、支持する傾向がみられたということである。チャベスの指名で外部からやってくる州知事候補を反チャベス派は「落下傘部隊」と揶揄した。

チャベス派の20名の州知事候補が明らかな勝利を収めたことについては、解釈が2つある。ひとつは、有権者が地方政治における地元のリーダーシップや主体性を重要と考えず、無関心であること、もうひとつは闘病中でありながら知事候補全員を指名したチャベス大統領への支持の表れである。地方首長候補を、地方の意見を聞くことなくチャベス大統領の指名によって決めたことで、権力や票の私物化がいつそう助長された。

州知事選挙の票の97.5%はチャベス派候補(54.4%)かMUD候補者(43.1%)のいずれかに向けられた。一方、チャベスから離反したものの、チャベス派ともMUDとも同盟しなかった無所属の候補者はわずか2.5%しか得票できなかった。州知事選におけるチャベス派と反チャベス派の全国合計得票の差は11.3%ポイントであり、大統領選挙における両勢力の得票率差と大差ない。

チャベス大統領は10月7日の大統領選で、1万2000ある投票会場のうち79%の会場で勝利した。一方12月の地方選挙では、1万2476の投票会場のうち82%の会場で勝利した。すなわち投票会場の数でいえば、チャベスおよびチャベス派候補は、いずれも10カ所中8カ所の投票会場で勝利したということである(*El Universal*, 19 de diciembre de 2012)。

2. 州議会議員選挙

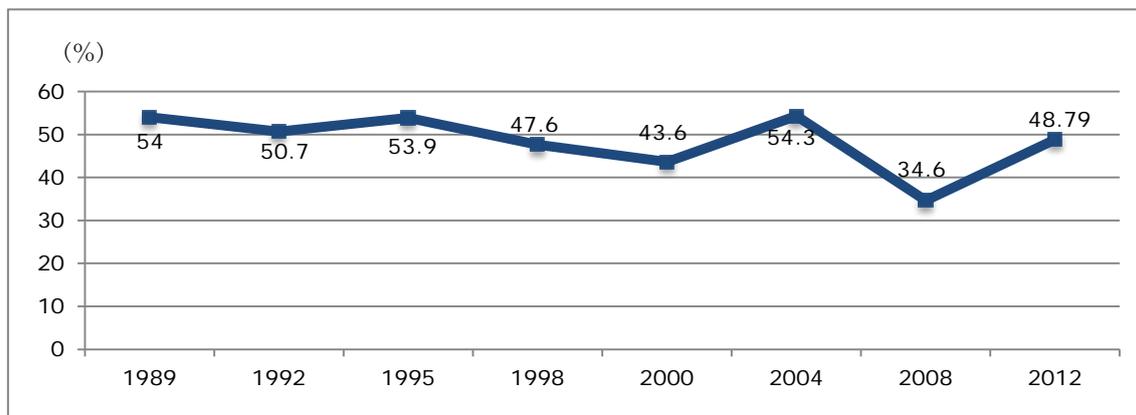
州議会議員選挙に関する選挙規定によると、各州が選出する州議会議員の数は次のように規定されている。人口が70万人以下の州は7人、70万～100万人の州は9人、100万～130万人の州は11人、130万～160万人の州は13人、160万人以上の州では15人の議員を選出する。一方、先住民居住選挙区はアマソナス、アンソアテギ、アプレ、ポリバル、デルタ・アマクロ、モナガス、スクレ、スリア州にあり、各州1人の先住民代表を選

出する。州議会議員の選出には、混合式選挙制度¹⁹を用い、選出される議員ポストのうち54は比例代表リスト式で、175は候補者名記名式で選出する。先住民代表は、比例代表リスト式ではなく絶対多数で選出すると定められている。

今般の州議会議員選挙では、チャベス派はアマソナス州を除くすべての州で多数の票を獲得した。反チャベス派は5州（デルタ・アマクロ、グアリコ、ポルトウゲサ、トゥルヒージョ、バルガス）においては1議席も獲得することができず、ミランダ州ではチャベス派、反チャベス派MUDで議席をほぼ二分したが、チャベス派がわずかに1議席上回った。

図3が示すように、州議会議員の棄権率は48.8%となり、2008年の地方選挙を14.2ポイント上回り、1998年から2012年までに実施された5つの地方選挙の平均棄権率を3%上回った。これは、地方分権法の施行にともないベネズエラで初めて知事選が実施された1989年の平均棄権率（48.4%）に非常に近い数値である。この種の選挙ではごく平均的な棄権率であるとしても、48.8%の棄権率はやはり高いといわざるを得ない。これは、選出されるポストのランクが下がる、つまり公職の重要性が低い選挙では、棄権者が増えるという仮説で説明できる可能性もある。また、投票日が仕事や学校のクリスマス休暇の初日と重なったということも投票率が低かった一因と考えられる。さらに、大統領選挙のわずかに1カ月半後に地方選挙が実施されたため、短い期間に大きな選挙が2回続いたことによる有権者の選挙疲れがあったとも考えられる。

図3 1989～2012年の州知事選挙における棄権率



(出所) 表1に同じ。

¹⁹ 注13および詳細は第2章を参照のこと。

棄権者の増加により打撃を受けたのは、チャベス派も反チャベス派も同様であった。10月7日の大統領選挙の得票数に比べて、与党 PSUV の得票数は 40.7%減、反チャベス派 MUD の得票数も 41.7%減であった。

大統領選挙と同様、知事選挙の選挙運動においても政治勧誘に公的資金が充てられた。まだ知事に選出も就任もしていない与党 PSUV の候補者が、州内の公共事業工事の竣工式や完成式に出席して完成した公共施設を引き渡す、あるいは社会開発支援を授与するなど、まるで現職の知事であるかのように振るまっていた。またチャベス派の知事候補は有権者に対して、自分のためではなく、ハバナで行われた手術後療養中で不在が続くチャベス大統領のために、そしてチャベス大統領が自らの「コミュン国家プロジェクト」を継続できるよう、知事選では自分に投票するよう呼びかけていた²⁰。12月16日の地方選挙を監視したベネズエラ選挙監視団は、次のように述べている。「権力にあるものが、それを使用し得られるさまざまな資源を活用した結果、一方の候補者がほかよりも明らかに優位に立つ、公平性に欠けた選挙であった。この意味で現行の法律は適正ではなく、何の懲罰も適用されないというのは適切ではない。さらに、国家選挙管理委員会に規則遵守を強い能力がないことも適正とはいえない。」 (*El Universal*, 22 de diciembre de 2012)

おわりに：道具としての民主主義

民主主義体制において選挙は、国民の代表を選出する正当な制度である。しかしベネズエラにおいては2006年以降、選挙は対立する政党が競う制度ではなく、選挙マシーン（組織）や資金の規模が極端に異なる候補者が競う場と化してしまった。すなわち、一方の候補者は国家資源を自由に使い、各種社会開発政策や、政府の呼びかけで設立された地域住民委員会などを使って、クライエンテリスティックな政治関係を有権者との間で構築することができるという状況にある。もう一方の候補者にとっては、絶大な権力と潤沢な資金をもつ国家を相手に戦っているのと同じである。チャベス派の候補者は有権者に対して自

²⁰ 第3章の、与党 PSUV のアラグア州知事選候補タレック（Tareck El Aissami）のポスター写真を参照。

らを、チャベス政権、国家、一政党（与党）の一部であるということをアピールし、これらはすべて同一のものであると錯覚させている²¹。

今般の大統領選挙は、反チャベス派の勝利の可能性が過去の選挙と比べてもっとも大きかった選挙であり、また反チャベス派が彼らの勝利の可能性が高まっていることをアピールした選挙でもあった。

チャベス政権は民主主義をその価値ではなく、自らの政権運営を正当化するための道具として選挙を利用するが、チャベスに投票した有権者はそれを肯定したということである。一方で、米国の政治学者マコイ（Jennifer McCoy）が指摘するように²²、2012年のチャベス勝利の背景にはチャベスへの感情票があったことも否めない。つまり、チャベスおよびチャベス派の候補者に投票した有権者の多くは、チャベスの政治経済モデルを支持するというだけでなく、むしろチャベスへの感情移入から投票したといえる。病气療養中で不在のリーダーに投票するのはチャベス大統領への忠誠心からすれば当然のことであった。彼らにとっては、チャベス政権やチャベス派の州政府の業績に対して不満をもっていたり、否定的評価を下しているとしても、チャベス大統領や彼が指名した地方選挙候補者に投票することは別次元のことであり、彼らへの投票意思を損なわないのである。第3章で指摘されているように、とりわけ地方選挙でその傾向が顕著であった²³。チャベス支持者は、チャベスに投票することは自分がチャベスのプロジェクトを支えていることだと理解している。たとえば、犯罪が激増するなか、とりわけ貧困地域に居住するチャベス支持

²¹ このような状況に関し、チリの法学者サラケット（José Zalaquett）は*El Nacional*紙の取材に対しこう指摘している。「もし国家組織が、政治的理由により正統性と合法性をみせかけるための道具としてのみ評価されるのであれば、そのような国家は法治国家と呼ぶことができない。そのような政府は、出自（選挙で選出されたという意味で—監訳者注）という意味においては正統性をもつが、権力の行使の仕方という意味では正統性に欠ける」（*El Nacional*, 13 de enero de 2013）

²² McCoy, Jennifer [2012] “Detrás de la victoria de Chavez,” <http://america.infobae.com>（2012年10月20日アクセス）

²³ MUDの幹事長、アベレード（Ramón Guillermo Aveledo）は大統領の病気をめぐる秘密主義を批判し、何度にもわたり透明な情報開示を政府に要求してきた。「大統領の病状に関して不透明にしておくのは、政治運営や選挙操作に何かと都合が良いからである。病気の大統領への感情的な連帯感を利用することもできる。しかし有権者は、再選をめざすチャベス大統領が新たな6年間の任期を全うできる状態にあるのかがわからないまま投票せざるを得なかったのである」と述べている。ビジェガス通信情報大臣（Ernesto Villegas）はこれに対し、「国民はチャベス大統領と自らを同一視し、親愛に満ちた関係を築いているので、大統領の病状についてはとてもよく理解している」として、ベネズエラ国民が大統領の病状を詳しく知る必要がないと答えた（*El Universal*, 28 de diciembre de 2012）。一方、前副大統領で今回の州知事選でミランダ州知事候補であったハウアはこう述べている。「チャベス派であるということは、こういうことである。我々を裏切ることがないリーダーに親愛の情をもつこと。我々の英雄的な過去を、現在・未来に継承するために国民が意見をもつこと。誰もが他者より優位であることはなく、誰もがすべての権利をもつことを理解すること。我が祖国に対し、心の底から祖国愛を感じる。そしてベネズエラ国民でありラテンアメリカの民であることに深い誇りをもつことである。」（2012年12月30日付AVNニュース局）

者の安全が脅かされ、彼らにとって最大の問題が治安問題であるにもかかわらず²⁴、それはチャベス支持者らのチャベス大統領に対する投票意思には何ら影響せず、大統領の再選を阻む理由とはならなかったのである。

反チャベス派の知事候補 23 人を支持した MUD およびそれと選挙同盟を組んだ諸政党は、2012年12月の知事選では合計 364万 3426票を獲得したが、前回（2008年）の地方選挙と比べると 52万 7545票、直前の2012年10月の大統領選挙と比べると 274万 7872票を失った。一方チャベス派とその選挙同盟は、2012年12月の地方選挙では、2008年の地方選挙と比べると 60万 47票、2012年10月の大統領選挙と比べると 333万 5792票を失っている。反チャベス派が地方選挙で票を失ったのは主に棄権が増えたことによると考えられる。一方で、チャベス派が失った票の一部（一部とはいえ重要な）は、連立与党を組む諸政党が今回の地方選挙では与党 PSUV にぶつけて独自の候補者を7つの州で擁立したため奪われた票であったということは、注目すべき点である。独自候補がもっとも多い票を得たのは共産党であった。これは、チャベス派が内部分裂を食い止めて再統合し、巨大なヘゲモニーを維持することができるのはチャベスしかいないことを物語っている。というのも、今回このように地方選挙でいくつかの政党が与党 PSUV 候補ではなく独自候補を立てた背景には、チャベス大統領が海外での病気治療のため不在であったことが大きい。

概して 2012年の2つの選挙結果は、チャベス派勢力がゆっくりだが確実に衰退する傾向にあること、そして反チャベス派の勢力は途中で停滞するものの確実に歩みを進める傾向にあることを示している。また、両方の勢力とも大統領選挙では票を伸ばし、地方選挙では票が減少する傾向も確認された。これには棄権率が影響していると考えられる。

チャベスとチャベス派の候補者が当選したことで、チャベスの政治プロジェクトはさらに進展し、急進化の道を進んでいくであろうと考えられる。チャベスの推進する「21世紀の社会主義」国家建設プロジェクトの内容や政治運営の方法、およびチャベス大統領の民主主義概念に賛成できないと、多数の反チャベス派国民が表明したにもかかわらず、チャベス派政権はさらにプロジェクトを推し進めるであろう。反チャベス派は、政治制度を支配しようとするチャベス派に対する抵抗を続け、その結果ベネズエラでは二極化と政

²⁴ メキシコの治安を扱う NGO のまとめでは、カラカスの人口 10 万人あたりの殺人件数は 119 件で、世界で 3 番目に危険な都市である。このランキングの世界上位 50 都市のなかにベネズエラは 5 都市が入っている。カラカスに続き、バルキシメト (71.74)、シウダ・グアヤナ (55.03)、バレンシア (43.87)、マラカイボ (35.44) (El Nacional, 14 de octubre de 2012)。

治対立が続くであろう。ただし、このシナリオはチャベス大統領の病状の深刻さ次第で変わる可能性もある。